

番号 **3** **平成28年度公共事業事後評価調査** 担当課名[河川海岸整備課]

事業名	広域河川改修事業・総合内水対策緊急事業	事業主体	静岡県
箇所名	二級河川 <small>にきゅう かせん</small> 今ノ浦川 <small>いま のら がわ</small>	市町名	磐田市

事業概要					
事業期間	当初又は前回	H12年度～H33年度	事業費	当初又は前回	3,872百万円
	実績	H12年度～H23年度		実績	2,773百万円

事業量	広域河川改修事業 改修延長 1,450m (引堤、河床掘削)、橋梁工1橋、樋門・樋管工3基 総合内水対策緊急事業 改修延長 2,850m (引堤、河床掘削)、橋梁工1橋、樋門・樋管工5基、床固工1基
-----	--

事業の目的・必要性

今ノ浦川流域では、河川の流下能力不足と地盤高が低いことが主因となり、中下流部で内水被害が頻発しており、近年でも平成10年9月洪水では床上浸水49戸、床下浸水159戸、平成16年11月洪水では床上浸水61戸、床下浸水163戸の浸水被害が発生している。特に、今ノ浦川支川の磐田久保川流域に位置する磐田市二之宮地区において多数の床上浸水が頻発していることを受け、河川管理者と磐田市及び農地管理者が連携してハード・ソフト対策を一体的に行う総合内水対策計画を策定し、内水被害の軽減を図っている。今ノ浦川では、河川改修により年超過確率1/20 (時間雨量63mm：平成10年9月洪水と同規模降雨) による洪水を安全に流下させることで、当地区の浸水被害を解消することを目的とする。

事業の効果等						
費用対効果分析結果	H18再評価	B/C	34.82	総費用 31.74 億円 (事業費：29.69億円 維持管理費：3.33億円 残存価値：-1.28億円)	総便益 1105.39 億円 (便益：1105.39億円)	基準年 H18 年
	事後	B/C	41.40	総費用 46.15 億円 (事業費：41.61億円 維持管理費：4.54億円)	総便益 1910.65 億円 (便益：1908.81億円 残存価値：1.84億円)	基準年 H28 年

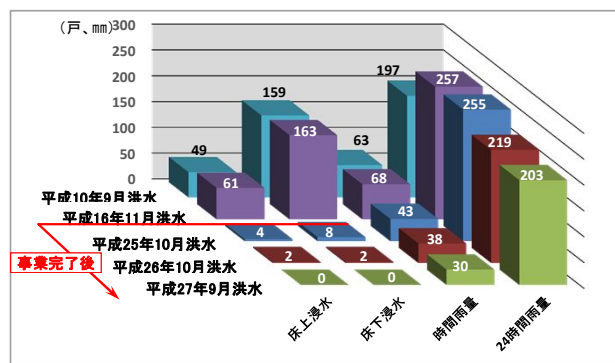
(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

費用については、橋梁の統合など事業内容の見直しにより事業費が大幅に削減された。便益については、近年の宅地造成などの開発行為に伴う市街化の進展により、被害軽減便益は高くなっている。

(2) 事業の効果の発現状況

評価対象氾濫原における浸水被害実績は、平成10年9月洪水 (時間雨量63mm、24時間雨量197mm) で床上浸水49戸、床下浸水159戸であったことに対し、同規模雨量の平成25年10月洪水 (時間雨量43mm、24時間雨量255mm) では、床上浸水4戸、床下浸水8戸に大幅に軽減している。

磐田市による下水道整備 (雨水幹線、今之浦第4ポンプ場の整備) も含めた事業の進捗により、平成26年以降にも24時間雨量200mmを超える降雨が発生したが、二宮地区では浸水被害が大幅に減少している。



事業実施による環境の変化

引堤部は、堤防法面の植生復元を図るとともに、現地植生であるヨシ等に着目し、水際部の湿地や砂州を復元するよう整備するなど、水際から陸域への植生の推移帯の保全を図った。

一方、改修前の堤防は植生の繁茂が著しく水際に近づけない箇所や流下阻害となっている箇所が散在していたが、改修後は地域住民の協力を得ながら継続的に適切な堤防管理を実施するとともに、水際においては植生が保全され、景観や自然環境面の向上が図られたことから、地元住民の散策等にも活用されている。

社会経済情勢等の変化

磐田駅北区画整理事業が平成26年度に完了し、磐田駅改修工事も平成28年3月に完成した。特に、駅南地区では、雨水幹線整備等の下水道事業の完了とともに、天龍西貝塚幹線道路整備や新橋（二之宮橋）が完成し、近隣には大型商業施設等が整備されるなど、土地利用が進んでいる。

対応方針（案）

（１）評価結果

効果は発現しており、改善措置の必要はない。

実際に発生した同規模雨量での洪水被害を比較すると、平成10年9月洪水（時間雨量63mm、24時間雨量197mm）で床上浸水49戸、床下浸水159戸であったことに対し、平成25年10月洪水（時間雨量43mm、24時間雨量255mm）では、床上浸水4戸、床下浸水8戸に大幅に軽減しており、治水効果が発現されていることが確認できた。

（２）今後の課題・対応

気候変動による局地豪雨の増加及び台風の強大化等により、改修規模を上回る降雨から住民の生命を守る対策が必要である。洪水ハザードマップの利活用、防災情報の提供といったソフト対策を市の関係機関や地域住民と連携して推進する必要がある。

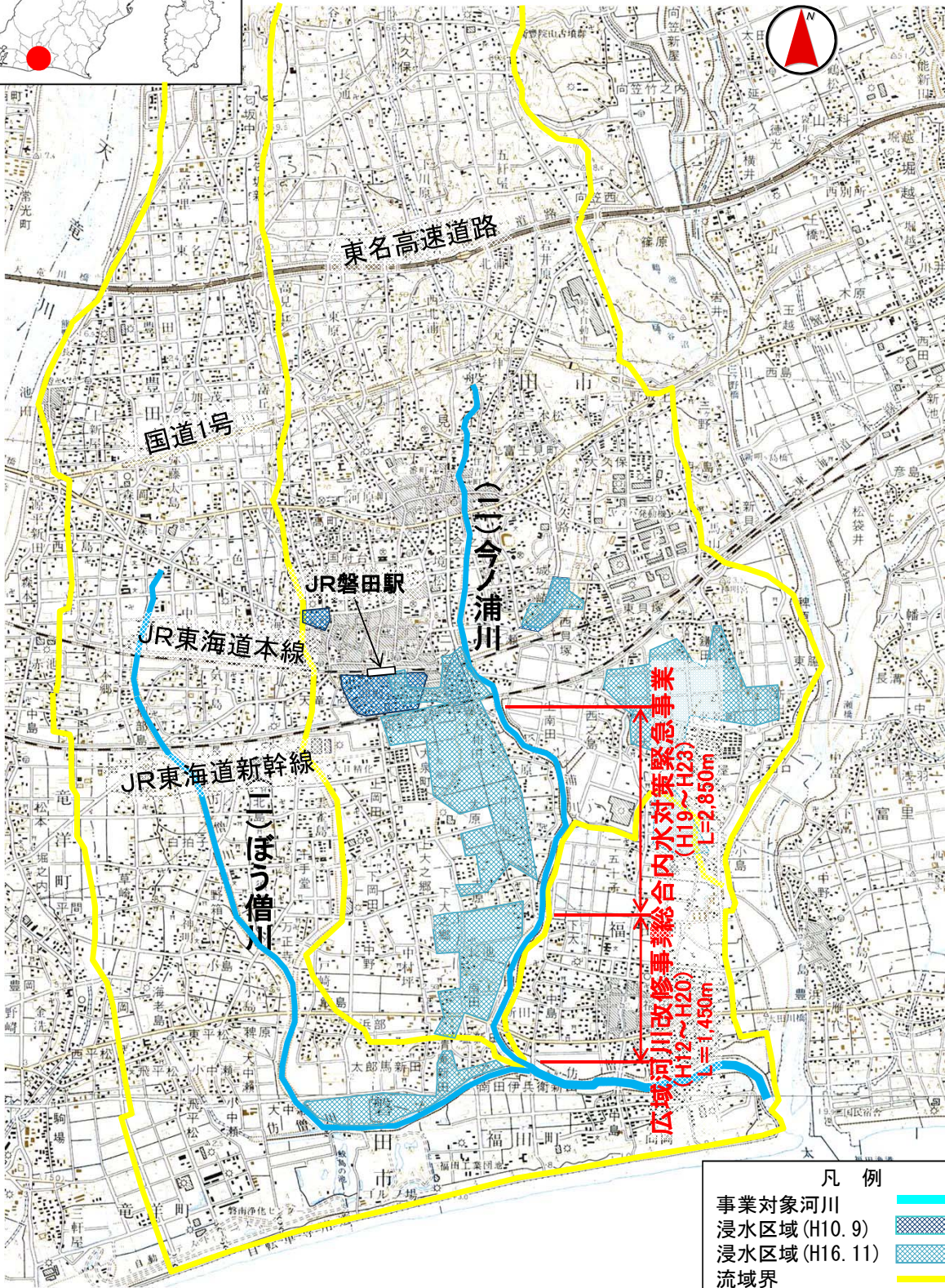
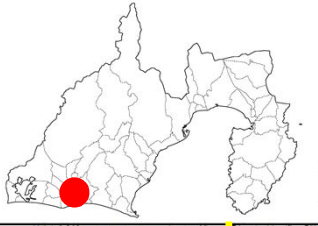
今後は、河川パトロール等や草刈りなど、河川管理者として適切な維持管理に努めるとともに、地元との協働による河川管理（リバーフレンドシップ制度）を強化するなど、「地域の河川を地域で守る」という意識を醸成していく。

併せて、治水対策に関係する部局で構成する「今ノ浦川流域総合内水対策協議会」において、各機関が行う治水対策の進捗管理を行うなど、引き続き関係機関と連携した治水対策を進めていく。

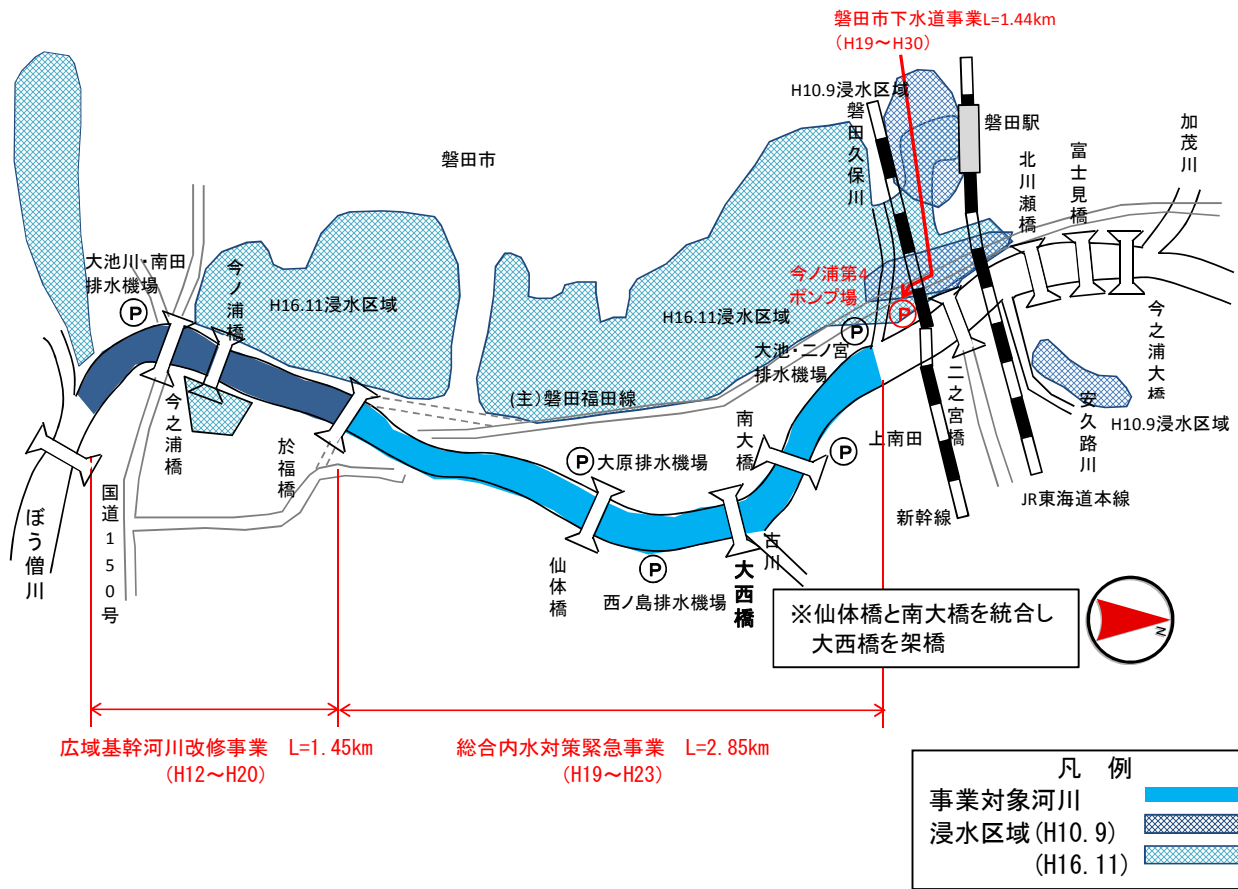
（３）同種事業への反映等

床上浸水が頻発する当地区は、河川、下水道、都市計画、農業、防災等の治水対策に関係する部局が連携し、総合的な治水対策を推進してきたモデル地区である。同様の被害が発生している県内8地区において、総合的な治水対策の取り組みを進めており、今後も、浸水被害の状況に応じて関係機関と連携を図りながら展開していく。

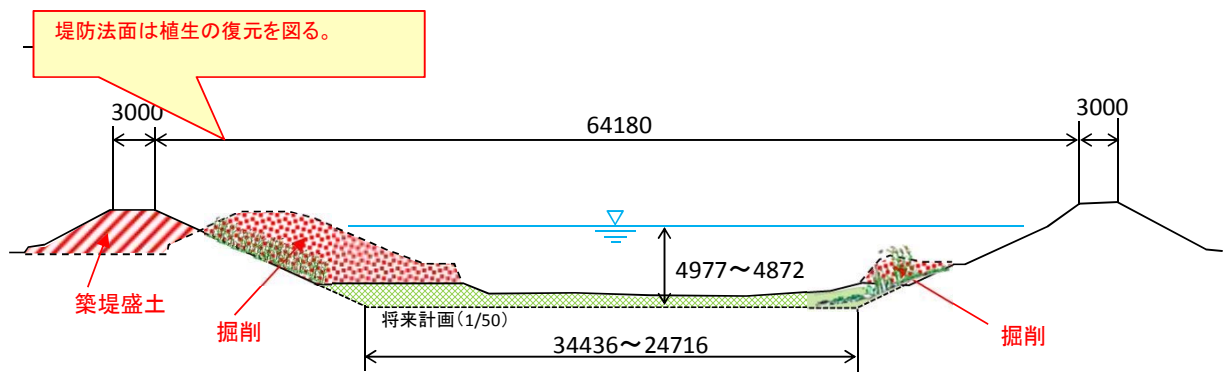
二級河川 今ノ浦川 位置図



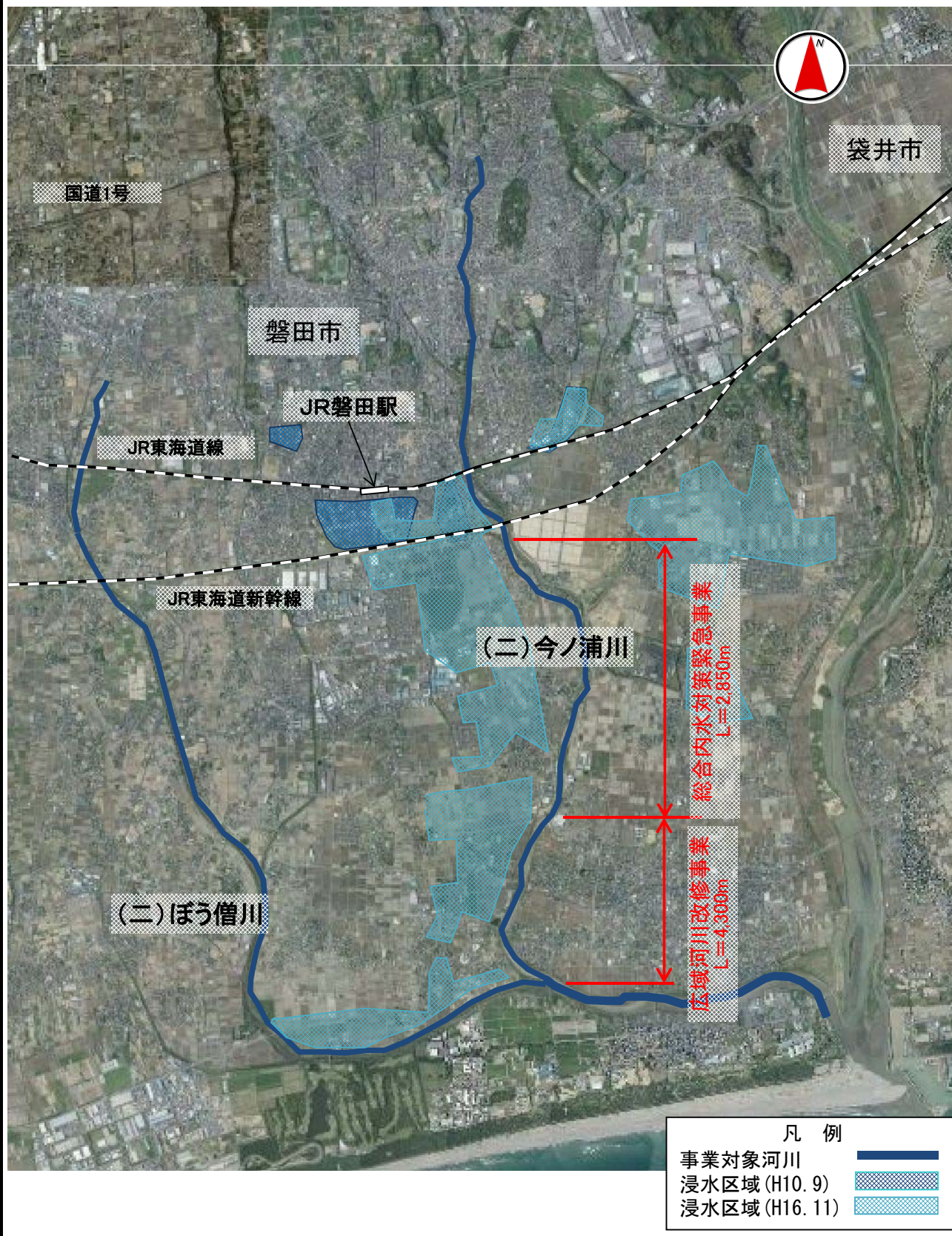
今ノ浦川 概略平面図



今ノ浦川 標準横断図



今ノ浦川 航空写真



改修の状況

総合内水事業

事業区間中間点 旧仙体橋より上流を望

改修前



改修後



自然環境への配慮状況(植生復元状況)

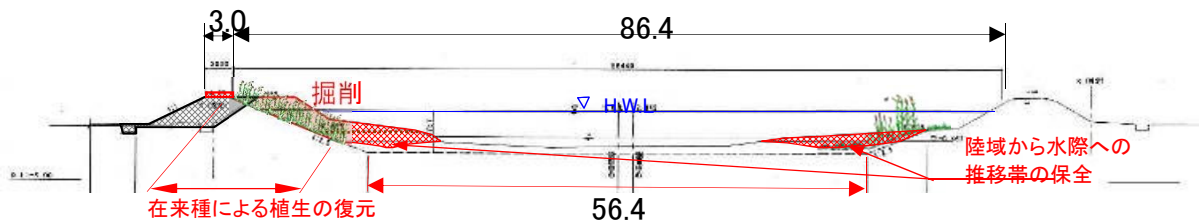
河川空間の利用(住民の散策状況)

旧仙体橋下流



自然環境への配慮

今ノ浦川標準断面図



多自然川づくりの概要
引堤した堤防法面は植生の復元を図る。
クサヨシの繁殖する湿地帯を保全する。

全体事業費減額理由

当初計画では橋梁2橋(仙体橋、南大橋)を架け替える計画であったが、磐田市及び地元と調整の結果、橋梁を統合することになり、橋梁架け替えにかかる事業費が縮減された。

